

観察会報告
麻機遊水地でのトンボの観察会
横山謙二



福井さんの説明を聞く参加者

7月25日、麻機遊水地第3工区内で、トンボの観察会を実施しました。この観察会は、夕方に活動するヤンマ類のヤブヤンマやマルタンヤンマ、ネアカヨシヤンマの飛翔を観察するため、午後4時から午後7時頃まで実施しました。参加者は、おじさんたちばかりの12名でした。そのおじさんたちがマスクをして、虫採り網とカメラを持って夕方集まっている姿は、はたから見れば、あやしい集団に見えたのではないのでしょうか。

観察会をはじめ、ヤンマ類の活動がはじまるまで、講師の福井順治さんの説明を聞き、周囲で、活動前のヤンマ類などを探しながら過ごし、午後5時過ぎごろ、ヤンマ類が飛翔しそうなところに移動し、じっと周囲を見回していました。午後6時近くになると、ちらほらとトンボの影が見られるようになり、薄暗くなるにつれその数は増え、まるでトンボの航空ショーのようでした。

私は、空全体を見渡せる場所に移動し、写真を撮っていました。暗がりでは飛ぶトンボは、ISO感度とシャッタースピードをあげても、ファインダーでとらえるのは容易なことではありません。ファインダーを覗くと同時に、もう一方の目で、トンボの飛ぶ方向を見ながら、飛ぶ方向を予測し、連射で何枚も撮影を試みました。その結果、何枚かは、飛翔姿を撮ることができましたが、ピントがあまく、



翅の付け根が濃褐色のマルタンヤンマ



翅の先端部が濃褐色のネアカヨシヤンマ



マルタンヤンマを追いかけるネアカヨシヤンマ

どれもシルエットのような写真しかとれません。これでは、とても種が判別できないと思いましたが、福井さんに見せたところ、翅の特徴などから、種類を教えてくださいました。

観察会が終わるころ、採集したマルタンヤンマやネアカヨシヤンマなどを見せてもらいましたが、やはり実物は綺麗な姿でした。飛翔姿を撮るのも楽しいですが、やはりこうした綺麗な姿を写真に収めたいものです。